

箕輪城跡(高崎市)

築城年代:永正元年(1505年)、築城者:長野業尚

ここは「搦手口」にある史跡箕輪城跡駐車場/前方の木々があるエリアが城跡



国指定史跡（昭和 62 年 12 月 17 日）
日本百名城（平成 17 年 11 月 10 日選定）

箕輪城跡



北側から見た箕輪城跡前景



「搦手口」から見た箕輪城跡/前方に説明坂が立っている



正面のエリアは「搦手馬出」



搦手口

長野氏時代から北条氏時代までは、ここが大手口であったようだ
時代下町が構成され、城の南方に城が大手口として、當時の情勢から考へた。この大手口は、城の裏口に馬出しがあつた。
時代下町が構成され、城の南方に城が大手口として、當時の情勢から考へた。この大手口は、城の裏口に馬出しがあつた。
時代下町が構成され、城の南方に城が大手口として、當時の情勢から考へた。この大手口は、城の裏口に馬出しがあつた。

昭和五十七年一月

箕輪城跡保存会

まず、「搦手口」→「二の丸」→「大堀切」→「郭馬出」→「木俣」と進んでみよう



「搦手馬出」



左手を見たところ/「外堀」の名残りが感じられる



ここを右手に登ると「二の丸」、左手に行くと「大堀切」に出る



これは左手に少し進んだ所で、東屋の屋根が見える「二の丸」の左下に「大堀切」が見えている



さて、右手に進もう/前方が「二の丸」



ここで右手を見ると、これは「本丸」東側の帯郭で「稻荷曲輪」方向に続いている/後程行ってみよう



さて、折れのある搦手からの虎口を登って「二の丸」へ進む



ここが「二の丸」/東側から西方向に見たところ



「二の丸」と記された標柱があり、説明坂も立っている



二の丸

二の丸は縦横各八十メートル程の郭で、本丸があるのに対し、これは出撃の拠点である。

東は堀手口に、西は白川口、大手方面へ、南は大堀切土橋から木侯方面へと四方へ出撃できるようになつてゐる。

昭和五十七年一月

箕輪城跡保存会

二の丸

ここは出撃の拠点だったといわれています。(東は搦手口へ、西は白川口・大手口へ、北は蔵屋敷・通仲曲輪・靈置山へ、南は大堀切から木俣・椿名口へ)

三の丸につながる西虎口で礎石を用いた門跡(間口 2.8 m. 奥行 3.2 m. 磂石 6 個)が確認されました。

門の南側には大堀切に沿って階段状に 3 段に積まれた石段がありました。

これは南西側から北東方向に見たところ



振り返って「三の丸」につながる西虎口を見たところ/空堀と土橋がある



これは「二の丸」の東端の東屋の付近で、武田軍の大軍勢が押し寄せてきたという東側の搦手、明屋集落方面を見たところ





こんな感じ



さて、「二の丸」の南方向を見ると「郭馬出」とその間の「大堀切」が見える/標柱と説明坂が立っている



大堀切と土橋

「一城別郭の城」という

この大堀切によって城
は南北に二つに区切られ
て、矢方にある土橋一つで連
絡されてい。このよう
に一方を失つても、方だ
けで戦闘を続ければ、仕
組みのもの。を「一城別郭」
の城と云う。
土橋の南には見事な郭
馬出しが構えられた。出撃の
気勢を見せて、いる。

昭和五十七年一月
箕輪城跡保存会

これは「大堀切」を「郭馬出」へ渡る土橋



左手に「大堀切」を見たところ/左手が「二の丸」、右手が「郭馬出」



右手に「大堀切」を見たところ/左手が「郭馬出」、右手が「二の丸」



ここが「郭馬出」/標柱と説明坂が立っている



郭馬出

郭馬出しは、五十メートル×三十メートル程の郭で、回りに土手を設け外部から見えない回りの中に兵を結集し、土手の両側から一挙に打って出る所である。このような大形の馬出しを「郭馬出し」という。

高崎城の梅木郭は、この郭馬出しを手本としたものであろう。

昭和五十七年一月
箕輪城跡保存会

東側から西方向を見たところ/左手は復元された「郭馬出西虎口門」



右手を見たところ/今渡って来た土橋が見える



これは振り返って東方向を見たところ、「郭馬出」を取り巻く空堀が見える



南側から「二の丸」(北方向)を見たところ



これは振り返って南方方向を見たところ、「郭馬出」を取り巻く空堀の向こうに「木俣」が見える



空堀を見下ろしたところ



これが復元された「郭馬出西虎口門」



左手を見たところ/狭間も復元されている



右手を見たところ



振り返って北方向を見たところ/回りに土手が設けられているのが見て取れる/左手が「二の丸」



ここで左手に「二の丸」方向に「大堀切」と土橋を見ると堀底に石垣が見える



さて、「郭馬出西虎口門」を西側に出てみよう/「郭馬出」を取り巻く空堀を渡る土橋がある/右手が「大堀切」



左手を見たところ



右手を見たところ/「郭馬出」を取り巻く空堀が「大堀切」に落ち込んでいる



橋を渡り、「郭馬出西虎口門」を西側から東方向に見たところ/左手が「大堀切」/手前に説明坂がある



郭馬出西虎口門

The Gate of the West Entrance to the Kaku-umadachi

2002年度の発掘調査によって、郭馬出西側の出入口（虎口）部分で井伊氏の時代（16世紀末）の城門の柱の礎石が8石確認されました。

この虎口は本丸への登城ルートのうち、城南側からの2ルートが集約される防御上極めて重要な場所となっています。そのため、検出された箕輪城の城門の中では最大規模（幅5.73m、奥行3.48m）を誇り、箕輪城を象徴する城門の一つであったと想定されます。

礎石の配置等から2階建ての櫓門と推定されますが、近世城郭で一般的となる瓦葺きではなく、板葺きであることが、中世から近世への過渡期の特徴を示しています。

礎石がすべて残っていた好条件に加え

て、さらに各地に現存している近世初期の城門を参考にすることによって、門の建物構造を推定できました。2011年度からの文化庁の専門委員会での審議を経て、2014年度から2か年かけて、伝統的工法に基づき復元工事を行いました。

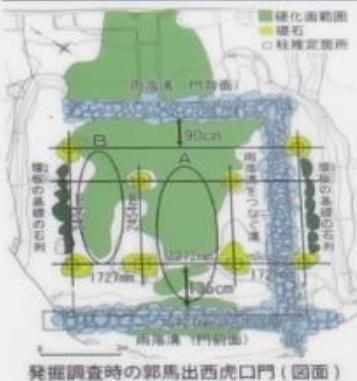
なお、この門は、関ヶ原の戦（1600年）以前の城郭で復元された城門の中では、全国最大規模になります。

8 pillar-stones of the west gate from the Ii era(late 16th century)were discovered during the 2002 excavation. This gate was the largest within the core area and it symbolizes the castle. The perfect preservation of the pillar-stones enabled the detailed consideration of the upper structure of the gate, leading to its two-year restoration project since 2014.



前面の2階部分は張り出しており、「石落とし」が復元されている

1 発掘調査で分かったこと

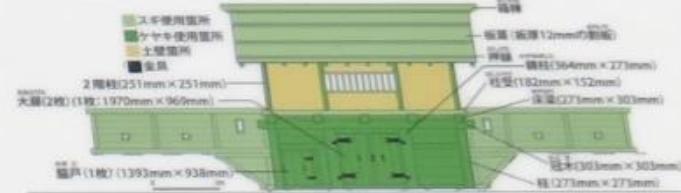


発掘調査時の郭馬出西虎口門（写真）

- ・礎石の配置から、1階建てになることが多い4本柱や6本柱の門ではなく、2階建ての櫓門であると推定されました。
- ・門の前面と背面で、雨落溝から礎石までの距離が違っています。前面が45cm長いことから、2階部分が張り出す形になり、「石落とし」のあることが推定されました。
- ・硬く踏み締められていた箇所（上図A）が、主な通行口で、大扉が取り付けられていたと推測されました。また、上図Bの箇所も硬化しており、脇戸の位置が明らかになりました。
- ・瓦の出土がなく屋根は板葺と推定されました。

2 復元案の作成

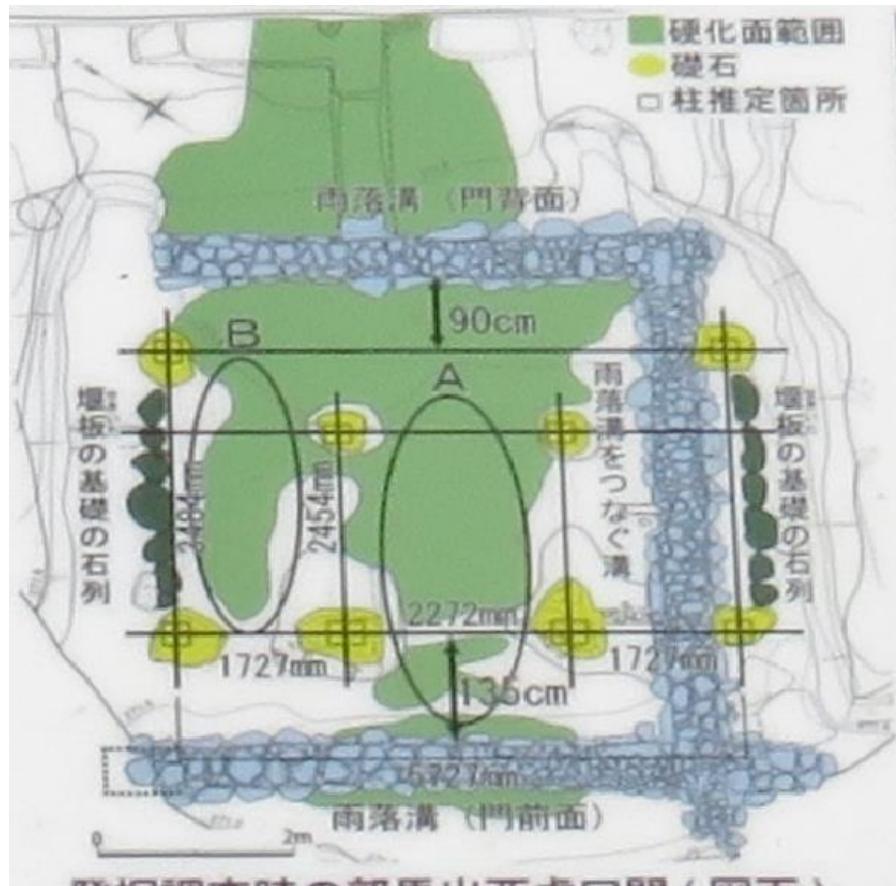
- ・発掘調査成果や現存する近世初期の城門を参考に復元図を作成しました。



3 復元整備の工程

- ・伝統的工法で復元を行うため、多くの工程がありました（2014年6月～2016年6月）。





発掘調査時の郭馬出西虎口門（図面）



発掘調査時の郭馬出西虎口門（写真）

「郭馬出」を取り巻く空堀を見たところ



このように続いている/東方向を見たところ



左手の「大堀切」に下りてみる



これが先程見えた「大堀切」の堀底の石垣/背後は土橋/左手が「二の丸」、右手が「郭馬出」/手前に説明坂がある



大堀切の土橋

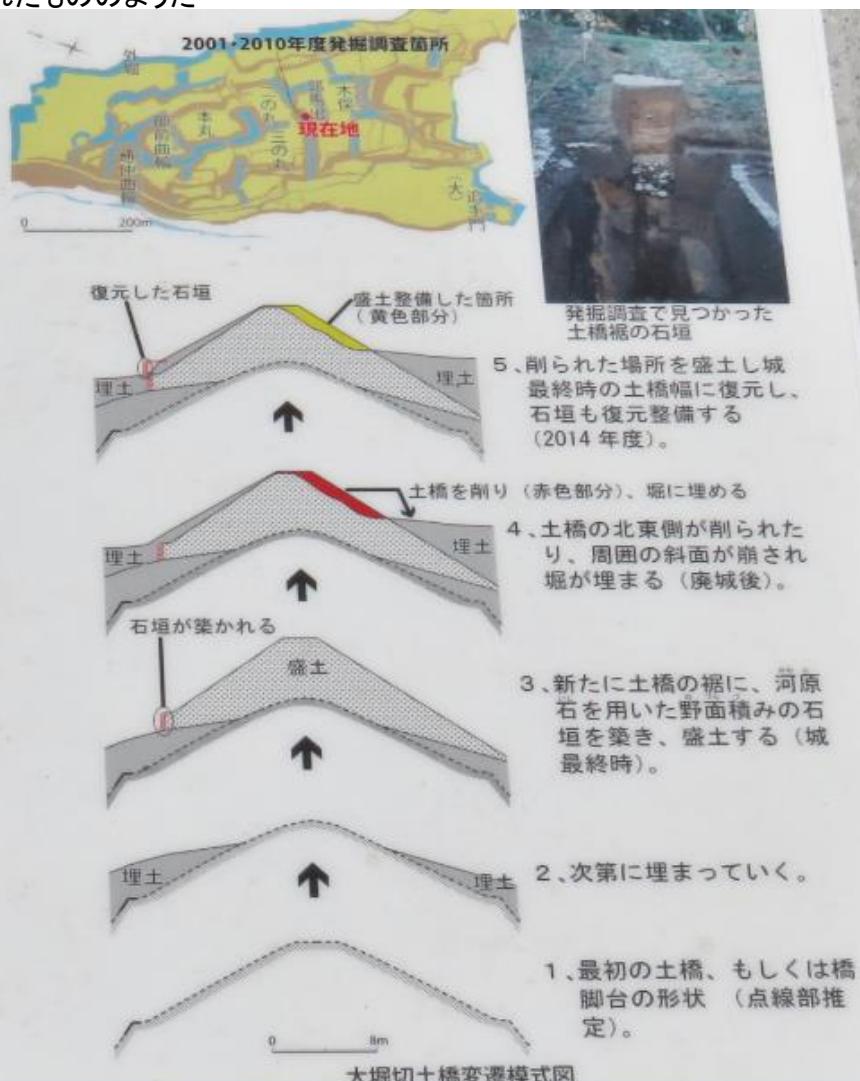
The earth-paved bridge of the Ohorikiri

この石垣は復元されたものようだ

大堀切を渡る唯一の土橋です。2001・2010年度の発掘調査の結果、数時期にわたる変遷が確認され、城最終時までに土橋の南西側の裾に石垣を築くなどの改修が行われ、廃城を迎えてることが明らかになりました。

2014年度に城最終時の土橋の形状に復元しています。廃城後に削られた部分は盛土で復元して、発掘された石垣は地下に保存し、その上に、新たに石垣を復元しました。

This is the sole earth-paved bridge that crossed over the Ohorikiri. It was confirmed in the 2001 and 2010 excavation that the bridge had been reconstructed original form multiple times. Stone walls at the foot of the south-east end were added on by the end of the 16th century. The bridge was restored in 2014 to its final form.



振り返って西方向に「大堀切」を見たところ/右手は「三の丸」



その先に行ってみる/ここから下がっている/前方は「虎韁門」のある「大堀切口」



そこで振り返って見たところ/先程の石垣が見える/左手は「三の丸」



アップで見たところ



さて、ここは「郭馬出」の南側に見えた「木俣」



標柱と説明坂が立っている



木

俣

通路が二俣
ようになり、
かれもののか
いふので、木俣と
いう。この形を
木俣といふ。

昭和五十九年一月
箕 郎 町

木俣の発掘調査

The Excavation of the Kimata

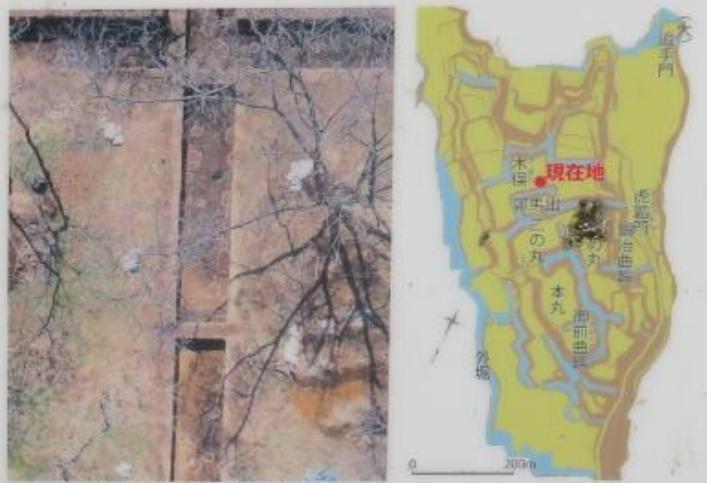
ここは木俣と呼ばれる曲輪で、家臣団の屋敷地の一つと思われます。2003年度の発掘調査で以下のことが分かりました。

①木俣外周を南北方向に囲う2本の堀(右下図のA・B)は、元々さらに北西へ続いていましたが、郭馬出西虎口門が造られた頃に一部が埋められ、現在のような平場になったことが判明しました。

②築城前、木俣と郭馬出は現在より高低差がありましたが、城の改修で造成され、現在の地形になったことが分かりました。

③等間隔(180cm)で柱穴の並ぶ箇所があり、少なくとも3棟の掘立柱建物があったことが明らかになりました。

The 2003 excavation of the Kimata area revealed that the castle had been re-constructed by partially burying or embanking the moat. Also, more than three stilt houses were discovered in this area.



確認された掘立柱建物の一部



2003年度発掘調査箇所、及び確認された堀跡と造成箇所





そこから「郭馬出」(北西方向)を見たところ



左手の西方向を見たところ/平場が広がっている



ここは「木俣」の南側で、正面の土橋を渡って右手に進むと「大手尾根口」に至る



これは「木俣」を南西側から北東方向に見たところ



その先の平場



右手(南東方向)を見ると空堀が見える



アップで見たところ



その左手(東方向)を見たところ



さて、これは「木俣」の東側で北西方向を見たところ/空堀の左手は「郭馬出」



その右手(北方向)を見たところ/平場が続いている



アップで見たところ



その平場で西方向を見たところ/空堀の左手が「木俣」、右手が「郭馬出」



空堀越しに「郭馬出」を見たところ



堀底を見下ろしたところ



これは「大堀切」を見たところ/左手が「腰馬出」、右手が「二の丸」



「大堀切」の堀底で南西方向を見たところ/左手が「腰馬出」、右手が「二の丸」



次は「本丸」→「御前曲輪」→「三の丸」→「蔵屋敷」→「通仲曲輪」→「稻荷曲輪」→「新曲輪」へと進んでみよう



「二の丸」から北西方向にある「本丸」へと進む/舗装されているが、手前は「二の丸」と「本丸」の間の空堀を渡る土橋



左手にその空堀を見たところ/左手が「二の丸」、右手が「本丸」



正面は「本丸門馬出し」



本丸門馬出し

東から南に鍵形の土居のあつた馬出しだで、
土居の北側から搦手へ、
南側からは二の丸へ出
撃する。

本丸の南側の突き出
ている部分は、この馬
出しの内外を側面から
守るようにできている。

昭和五十九年一月
箕郷町

「本丸門馬出し」を南側から北方向に見たところ



そこで振り返って見たところ/この下は最初に搦手から「二の丸」へ登って来た虎口



さて、これは「本丸門馬出し」の先を見たところ/ここは「本丸」への南虎口で、右手には土塁がある/左手前方が「本丸」



みなみこぐち
本丸 南虎口

本丸には3か所の虎口が確
認されました。

南虎口の門は間口2.6m、
奥行2.7m以下と推定され
ています。

左手にさまざまな石碑が立っている





箕輪城

野口 正田信玄 北条氏康、上杉謙信の三雄からもくとも関東管領山の内上杉家の再興を計って最後まで奮戦した武将である。

長野信濃守業政は弘治年間へ一五五五十八
から數回に及ぶ信玄の激しい攻撃を受けながら少しあ
る譲らず戦いぬいたすぐれた戦術と領民のために尽く
した善政により、名城主として長く語り継がれてゐる
業政の元後、子業盛(へいせい)は父の遺志を守り將兵
一体となつてよく戦つたが頼む諸城は次々と武田の手
に落ち、永禄九(一五六六年)九月二十九日、さしも
の名城箕輪城も武田勢の総攻撃によりついに落城す
るに至った。城主業盛は
春風いうのも桜も散りはてて

期を遂げた。長野氏の在城は六十余年である。
武田氏の時代は天正十二年（一五八二年）その滅亡にて終り、織田信長の時代には滝川一益が一時在城したが、信長の死後は北条氏邦が城主となり、城を大改修した。
天正十八年（一五九〇年）、北条氏滅亡後徳川家康は重臣井伊直政を十二万石でここに封して関東西北の守護のとして城下町も整備した。その後、慶長三年（一五九八）直政が城を高崎に移し、箕輪城は約一世紀におよぶ歴史を閉じた。

箕輪城跡の標高は二百七十メートル、面積は四十七
ヘクタールに及ぶ立城（一部平城）である。西は榛名
山川の折衝に臨み、南は榛名沼、東と北とは水堀を回
らし守りを固めている。
城は斜べ十数メートルに及ぶ大堀切で南北に二分さ
れ、さらに西北から東南の中心線に沿って深く広い空
堀に隔てられ、多くの郭が配置されている。
即ち輪で発見された井戸をはじめとする多くの井
戸や水槽の用水によつて城の用水は完備していた。殊
に古事記註疏、江戸時代の兵書「手鑑」にも引用され
て、名水としてくれば用水である。
今、城の「馬出し」や櫓などの石垣をはじめ各所
に残された石垣も残されてゐる。

昭和五十七年一月
箕輪城跡保存会

これは「土墨の土がくずれないように作られた石垣



「この石垣は、土塁の土が
くずれないように作られた
ものです。二段ほどに積ま
れ堀にそつて長く続いてい
るようじです。

石垣の上は「犬走り」と呼
ばれる通路になっています。
城の改築のとき作られたも
のでしそうが今年の発掘で
見つかりました。

昭和五十七年三月

箕郷町教育委員会

こんな感じ



さて、「本丸」の標柱と説明坂が立っている/南東側から北西方向に見たところ



「本丸門馬出し」は「曲尺馬出し」ともいいうようだ

本丸

本丸は御前曲輪とともに城の中心部であり、南北約百メートル、東西約七十メートル、東側には高い土手を築いて城内が敵に見えないようにしてある。この土手が御前曲輪の東側まで続いていることにより、御前曲輪も本丸の一端であると考えることができるよう

本丸と御前曲輪の間の空堀は東部が浅く西部が深く、西の空堀に降りる通路となっていた。空堀底には初期にはすべて交通壕であつたが、後に堀り下げられてそのままの形態で、後には虎口へ出入口に、そのはたらきを失つたらしく、南の本丸の虎口へ出入りしがつゝ、本丸南部が突き出して虎口前を側面から防ぐようになつてゐる。

昭和五十七年一月

箕輪城跡保存会

本丸

箕輪城には天守閣はありませんでしたが、多数の「かわらけ」や樂茶碗などが発掘されていることから、城主の住む建物や軍議を開いたり酒宴を催したりする館があったと推定されています。

城主の交代を契機に城の造り替えが行われたことが発掘調査で確認されました。

これが東側の高い土手(土塁)/前方の「御前曲輪」の東側まで続いている/南側から北方向を見たところ



その土壘は下部には石が積まれ、腰巻土壘となっている



これはその土壘上から東方向を見下ろしたところで、「本丸」の東下にある帯郭が見える



これは「御前曲輪」の手前の北虎口から東側の土塁を見たところ/北側から南方方向を見たところ



これは土壘の上に登って北側から南方向を見たところ



これは土墨の上から東方向を見たところ



さて、ここは「本丸」の北虎口で、正面は左手の「本丸」と右手の「御前曲輪」との間の空堀/東側から西方向を見たところ/手前が浅く、前方が深くなつて「本丸」西の空堀につながつている



きたこぐち
本丸 北虎口

北虎口の門は間口 5.4 m、
奥行 3.3 mで、本丸の 3か所の
門の中で最大の規模のものだと
いうことが確認されました。

門跡の周囲には 101 個の四
角い石塔で排水溝が造られ、石
塔には梵字や 15世紀の年号が
刻まれているものもありました。

これほど大量に石塔を用いた
例は全国的に珍しいといわれて
います。

これは「本丸」で北側から南方向を見たところ



これは反対に南側から北方向を見たところ/東側の土塁が見える



左手で「本丸」西の空堀を見下ろしたところ/堀底に説明坂が見えるがここに「本丸」から前方の「蔵屋敷」に出る橋が架かっていた



付近に石が積まれていたが…



さて、これは「本丸」から空堀越しに「御前曲輪」を見たところ/左手に屋根が見えるが、これは井戸の覆屋



前方は「御前曲輪」/東側から西方向を見たところ/手前に標柱と説明坂が立っている



御前曲輪

せんくる

わ

この郭は本質的には本丸の一部であつて、落城の際、城主はここに持佛堂に入りて自刃し、一族郎党みなあとを追つたと伝えられてゐる。箕輪城の精神的中心であつた天守郭が本丸の同一平面に設けられたとも考えられる所である。

昭和二年に発見された井戸からは多數の五輪塔などの墓石が発見された。西南隅には櫓がつづいており、壕内に石垣が残されてゐる。

昭和五十七年一月

箕輪城跡保存会

御前曲輪

御前曲輪は本丸の詰めにあり、城の精神的な中心であつた。西南の角に物見、戦闘指揮のための櫓があり、その下は石垣で固められてゐる。天守閣はなかつた。

落城の際、長野業盛以下自刃した持仏堂があつたと伝えられてゐる。井戸は昭和二年に発見されたものである。

東側から西方向を見たところで、正面に井戸の覆屋が見える



北側から南方向を見たところ



このエリアには様々な石碑があった



「箕輪城將士慰靈碑」とある



ここが井戸



ごぜんくるわ
御前曲輪 井戸

昭和 2(1927)年 8月 1
5日、豪雨のため一部地
盤が沈下したのがきっか
けで古井戸が確認されま
した。

深さは 20 m で、底か
ら長野氏累代の墓石が多
数掘り出されました。



井戸の裏手(西側)に説明坂がある/前方に木柵がある



御前曲輪西虎口門跡

The Gate of the West Entrance to the Gozen-guruwa

御前曲輪の出入口（虎口）です。御前曲輪西側の堀に架かっていた木橋を渡り、この虎口を出入りしました。

2005年の発掘調査では、ここから間口・奥行ともに3.1mの門跡が確認されました。6つの礎石が全て残り、主柱2本を4本の控柱で支える四脚門と考えられます。

門の雨落溝には156個の石塔の部材が用いられています。これらを整然と並べ格調高く整備された門です。

This is the west entrance (Koguchi) to the Gozen-guruwa. Those entering the Gozen-guruwa would cross the wooden bridge and pass through this entrance. The remains of the gate were discovered during the excavation of 2005. The gate was 3.1 meters square with six pillars, four outer pillars complementing the two main pillars. All six of the foundation stones remained. The runoff drainage channel surrounding the gate was constructed of 156 stones from disassembled pagodas.



四脚門イメージ



発掘調査時の御前曲輪西虎口



発掘調査時の御前曲輪西虎口

ここから西側の空堀を越えて前方の「通仲曲輪」に木橋が架けられていたという



これは「御前曲輪」の南西隅から西側の空堀(左手)沿いに井戸(前方に覆屋が見える)方向を見たところ/手前は土塁であろうか



西側の空堀とその向こうの「通仲曲輪」を見たところ



その堀底を見たところ



これはその土塁の上に立つ石碑/手前の両脇に立つ砲弾のようなモニュメントが意味深



さて、これは「御前曲輪」の北端から北西方向を見たところで、前方は西側から北側に廻り込んでいる「通仲曲輪」



手前の空堀を見たところ



これは「御前曲輪」からその空堀に下りて行く虎口



折れを伴いながら堀底に下っている/下に説明坂があるようだが、そこは「御前曲輪北堀」



さて、「本丸」と「御前曲輪」の間の空堀の西側から、「本丸」と「御前曲輪」を取り巻く空堀に下りてみよう



これは振り返って右手の「本丸」と左手の「御前曲輪」の間の空堀を見たところ



「本丸」と「御前曲輪」を取り巻く空堀に下りて、振り返って見たところ/右手が「本丸」、左手が「御前曲輪」



そこで左手を見たところ/この空堀は右手の「御前曲輪」を取り巻いて延びている/正面前方は「通仲曲輪」/左手は「蔵屋敷」



振り返って反対方向(南方向)を見たところ/左手が「本丸」、右手は「蔵屋敷」



右手を見ると説明坂がある



くらやしき
蔵屋敷

この上の曲輪が蔵屋敷です。

蔵屋敷は備蓄穀物を保管する建物のあった場所だと考えられますが、一説によると、

いわゆる「辻馬出」の機能を併せ持ち、ここから三の丸、通仲曲輪、鍛冶曲輪北方へ出撃するための拠点であったと推定されています。



空堀を南方向に少し進んで見たところ/右手に説明坂が立っている/この部分の地盤が少し高くなっている



その先を見たところ/左手は「本丸」、右手はこの辺りから先が「三の丸」のエリア



その地盤の高い所を西側から東方向に見たところ



本丸堀の橋合

本丸から蔵屋敷に出る橋の脚を立てた台で、

堀はここで狭く窄んでいた。

南側に石垣が昔のはまつてある。

昭和五十九年一月
篠ヶ原町

この地盤の高い所が橋台ということか/前方が「本丸」



その橋台を南側から北方向に見たところ



振り返って南方向を見たところ/「本丸」を取り巻く空堀はここで左手(東方向)に折れている



東方向に折れた空堀を見たところ/前方は東方向で、正面は右手の「二の丸」から左手の「本丸」への虎口



そこで右手を見ると、右手の「三の丸」と左手の「二の丸」ととの間の空堀が、この空堀に接続してくる様子が見て取れる



振り返って北方向を見たところ/左手が「三の丸」、右手が「本丸」



さて、空堀のコーナーから「三の丸」へ上がって見よう/ここも虎口の一つ



ここが「三の丸」/北西側から南東方向を見たところ



「三の丸」という標柱が立っている



三の丸の発掘調査

The Excavations of the Sannomaru

1999・2000年の発掘調査によって三の丸では3時期の変遷が確認されました。1期(15世紀末頃～16世紀中頃、長野・武田時代頃)は屋敷地、2期(16世紀後半、北条時代頃)に釘などを作る鍛冶場として利用された後、3期(16世紀末、井伊時代頃)には南西側に厚さ2.4m以上の盛土を行い、三の丸の石垣を築いています。

調査箇所北端部分は、虎韁門から鍛冶曲輪を経て本丸へ登るルートの途中になります。ここでは両側に石垣を伴う幅5.7mの通路跡(3期)が確認されました。通路は石垣に径1m程度の大石も使われた立派なものでしたが、廃城後に石垣は大きく崩されています。

The excavation of 1999・2000 revealed that the Sannomaru had been reformed three times between the late 15th century and the late 16th century. On the north end of the excavation area was the path leading to the Honmaru. The path was 5.7 meters wide, with stone walls on both sides, and belonged to the Third period.





南東側から北西方向を見たところ



振り返ると土塁が廻っている/土塁の向こうは「大堀切」



その「大堀切」を見たところ



堀底を見たところ





左手を見ると土塁は東側で北方向に折れて「三の丸」を廻っている



これはその折れて廻った土塁を北側から南方方向に見たところ/左端前方に「二の丸」への土橋が見える



これが前方の折れた部分



前方が「二の丸」への土橋/右手が土塁で左手は「二の丸」と「三の丸」との間の空堀



近づいて土橋を見たところ/土橋の向こうは「二の丸」



振り返って右手の「二の丸」と左手の「三の丸」との間の空堀を見たところ



その空堀の先を見たところ、「本丸」を取り巻く南側の空堀に接続している



こんな具合/下が「本丸」を取り巻く空堀



これはそこで振り返って左手の「二の丸」と右手の「三の丸」との間の空堀を見たところ



さて、これは「三の丸」の南西側にある虎口/こちらへ進むと「鍛冶曲輪」、「大手虎籠門口」へと至る/左手に石垣が見える



これは「三の丸門跡」の石垣



南西側から見た「三の丸門跡」と石垣/説明坂が立っている



三の丸門跡と石垣

城中の石垣で、比較的よくのこっているのはここである。三の丸は二の丸の外にあら郭である。入口の三の丸門には両側の石垣の上を渡した櫓があり、その下が道路であった。

昭和十九年一月
筆 郡町

さて、これは先程「本丸」の西側を取り巻く空堀から「三の丸」へ上がって来た虎口を見たところ/前方が空堀でその向こうが「本丸」



そこで左手(北西方向)を見たところ/この「三の丸」は向こうに行くに従って段々に高くなっている



こんな塩梅



一番高くなっている所から向こうが「蔵屋敷」というエリアのようだ



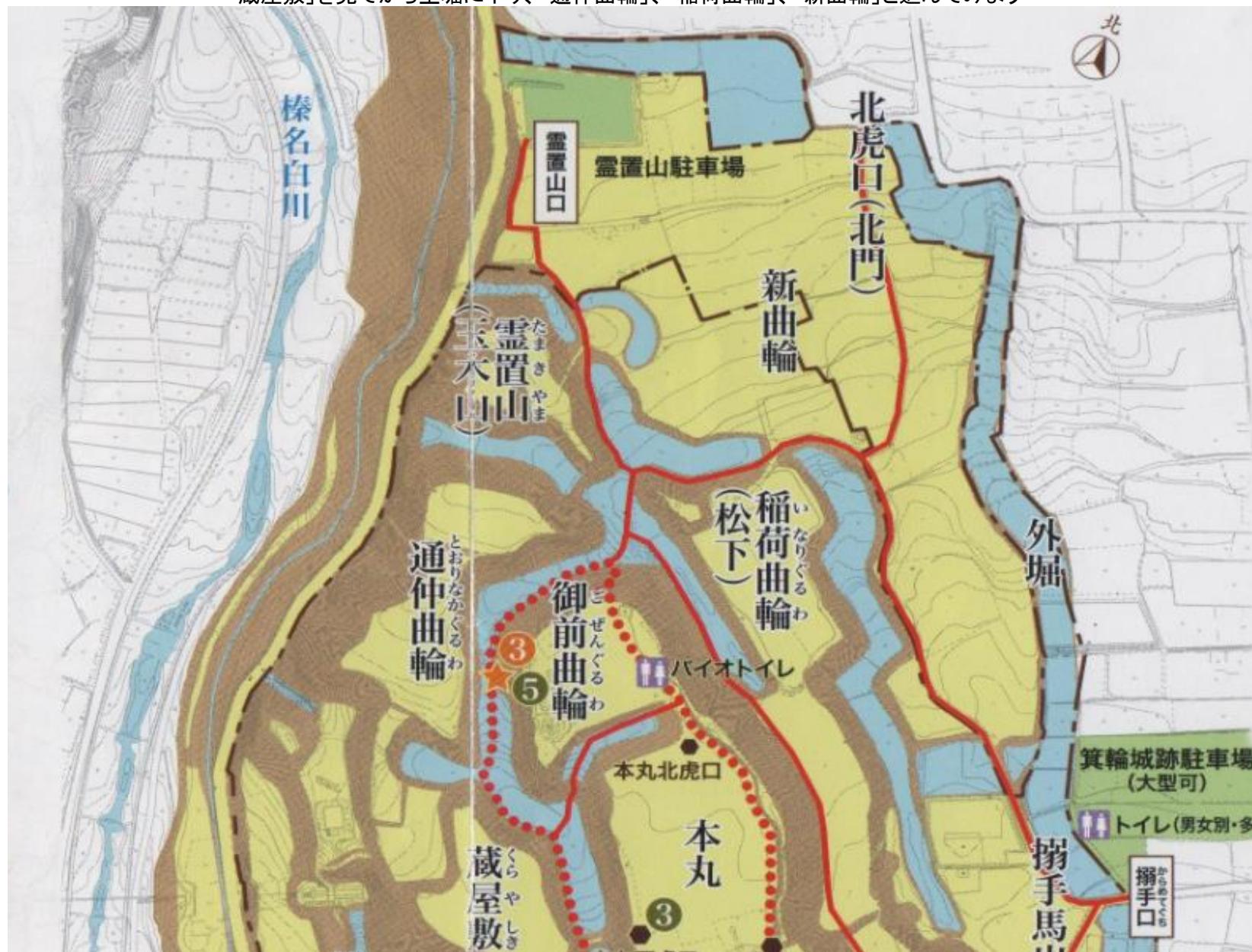
この先に分け入ってみよう



これは振り返って「三の丸」を見たところ



「蔵屋敷」を見てから空堀に下り、「通仲曲輪」、「稻荷曲輪」、「新曲輪」と進んでみよう



ここが「蔵屋敷」/北西方向を見たところ



右手に標柱が立っていた



前方が「本丸」の西側を取り巻く空堀で、その向こうが「本丸」



「蔵屋敷」を北西方向に進むと空堀が過ぎついてその向こうに新たな平場があるが、そこが「通仲曲輪」のようだ



堀底を見下ろしたところ



右手を見ると「本丸」と「御前曲輪」の間から空堀に下りてきた階段が見える



これはその空堀に下りて、上で見えた左手の「蔵屋敷」と右手の「通仲曲輪」との間の空堀を見たところ



これはその空堀に分け入って見たところ/左手が「蔵屋敷」、右手が「通仲曲輪」



さて、「本丸」、「御前曲輪」の西側を取り巻く空堀を北西方向に進んでみよう





右手前方に石垣が見えてきた/左手が「通仲曲輪」、右手が「御前曲輪」



これがその石垣/説明坂に「御前曲輪 西石垣」と記されている



ごぜんくるわ
御前曲輪 西石垣

とおりなかくるわ ごぜんくるわ
通仲曲輪・御前曲輪との
間の堀に架けられた橋の
橋脚部の土留めのために、
自然石をそのまま積み上
げた石垣(野面積み)です。

城内では比較的良好な
状態で残っています。

ここに「御前曲輪」と「通仲曲輪」との間の橋が架かっていた



これは「通仲曲輪」の平場に登って見たところ



そこから見た「御前曲輪 西石垣」



石垣の上方を見ると「御前曲輪」で見た木柵が見える



さて、更に空堀を北西方向に進もう/この先から右手に折れて行く



こんな感じで右手の「御前曲輪」を取り巻いている/左手は「通仲曲輪」



ここは「御前曲輪北堀」/右手の階段は「御前曲輪」から下りてくる虎口/左手は「通仲曲輪」/前方は「稻荷曲輪」で左手高所は櫓台



説明坂が立っている/前方の開けたエリアが「新曲輪」/左手が「通仲曲輪」で、その先が「靈置山(玉木山)」/右手が「稻荷曲輪」



御前曲輪北堀

分かれていった。稲荷曲輪の三つの中山通仲曲輪それぞれで
集まつてしまふ。これが
三つの郭の間に進む
と、新曲輪、丸馬上し
て行くところが見える。

昭和五十九年一月
箕郷町

さて、これは「搦手口」から「二の丸」へ進む途中にあった左手の「本丸」東側の帯郭で、ここを前方の「稲荷曲輪」方向に進もう



少し進むと前方に一段高い平場が見えてくる/左手が「本丸」、右手は東側の外堀



こんな塩梅/正面が「稻荷曲輪」



左手を見ると前方は先程の「御前曲輪北堀」/左手が「御前曲輪」、右手が「稻荷曲輪」、前方の突き当たりが「通仲曲輪」



これは「稻荷曲輪」を南東側から北西方向に見たところ



北西端に標柱と説明坂が立っている



箕輪曲輪

この郭は御前曲輪より
約七十メートル低く、ほ
ぼ三角形で東側の堀は水
堀であった。西北端の稻荷山は櫓台の稲
荷社のある稻荷山は櫓台の稲
で荷社のある稻荷山は櫓台の稲
を通り、御前曲輪の北側の堀は水
を通り、虎口へ出入
口を開き、南北は帶曲輪に連なる。

昭和五十七年一月
箕輪城跡保存会

正面が稻荷山で櫓台としての機能を負ったらしい



ここから登ってみよう



稻荷社がある



これは西方向の「御前曲輪」との間の帯曲輪を見たところ



これは北西方向の「新曲輪」ととの間の空堀を見たところ



こんな石碑もあった



「故箕輪城主長野氏三代慰靈碑」とある



これが北の虎口/前方は「新曲輪」のエリアとなる



振り返って「稻荷曲輪」を北側から南方向に見たところ



その左手を見るとこのように深い外堀となっている



その堀底を見たところ



さて、「御前曲輪北堀」から「新曲輪」へと進んでみよう



前方が「新曲輪」のエリア/左手は「靈置山(玉木山)」/右手が「稻荷曲輪」の櫓台である稻荷山



これは左手を見たところ/正面は左手の「通仲曲輪」と右手の「靈置山(玉木山)」との間の空堀



右手の「靈置山(玉木山)」を見たところ



振り返って「本丸」、「御前曲輪」と「稻荷曲輪」との間の帯曲輪を見たところ



さて、前方は「新曲輪」のエリア



そこで左手を見たところ/この前方に「丸馬出」がある



左手を見たところ/正面は右手の「稻荷曲輪」と左手の「新曲輪」との間の空堀



振り返ると「稻荷曲輪」の櫓台である稻荷山が見える



さて、右手の「稻荷曲輪」と「新曲輪」との間の空堀を進む



右手は「稻荷曲輪」の北の虎口/前方の窪んだ所は「稻荷曲輪」の東側の外堀/左手が「新曲輪」



これは少し先に進んで振り返って「新曲輪」を見たところ/前方に標柱が立っている/左手前は一寸したマウンド



これがマウンド



これが標柱/前方が「新曲輪」





これは「新曲輪」を南側から北方向に見たところ



振り返ると前方は「御前曲輪北堀」方向/左手が「稲荷曲輪」の櫓台/右手は「靈置山(玉木山)」



その左手を見たところ/向こうの「稻荷曲輪」との間の空堀が巡っている



さて、ここが「新曲輪」の西側にある「丸馬出」



標柱と説明坂が立っている/標柱には「丸馬出」と記されている



丸馬出

城の東北部はめろやかな斜面なので、木塹を二重にめぐらして備えを固めているが、この方面の敵に対して土撃するためこの馬出しが設けられた。南北両側に出入口を開くと土手は半円形で、このような塹を三日月塹と呼ぶが、丸馬出しの残つてている例は案外に少ない。

昭和五十七年一月
箕輪城跡保存会

赤丸の所が「丸馬出」で三日月堀となっている/三日月堀は現在は埋まってしまっている



「丸馬出」から北方向を見たところ



西方向を見たところ



東方向を見たところ



「丸馬出」を三日月堀跡に沿って時計回りに廻ってみる



こんな感じ



三日月堀は埋まってしまっているが、雰囲気は感じられる



そこから「丸馬出」を見たところ



さて、これは「丸馬出」の背後の「靈置山(玉木山)」との間の空堀を見たところ



堀底を見たところ



堀底に下りて東側から西方向を見たところ/左手が「靈置山(玉木山)」



さて、これは「新曲輪」の東側で、南東方向を見たところ/右手が「稲荷曲輪」/左手には「外堀」が廻っていた





右手の「稻荷曲輪」とその間の空堀を見たところ



空堀を南東方向に見たところ



これは少し南東方向に進んで、空堀越しに「本丸」とその手前の帯曲輪を見たところ



これは空堀に下りて北西方向を見たところ/左手が「本丸」とその手前の帶曲輪



振り返って南東方向を見たところ/右手が「本丸」とその手前の帶曲輪



次に「大手虎韁門口」→「鍛冶曲輪」→「三の丸の石垣」と進んでみよう



右手が「大手虎韁門口」/左手には「白川口埋門」と記された標柱と説明坂が立っている



これは右手の「大手虎韁門口」の看板



これが左手の「白川口埋門」と記された標柱と説明坂/正面が「埋門」で白川河原へ下りる虎口となっている



箕輪城と鷹留城は別城一郭といわれるよう、一体としての機能を負っていたようだ

白川口埋門

虎鞆門から白川河原に出る
道はここ唯一である。
虎口へ出入口の両側に石
垣を積み、上に木や石を渡しし
て土手をその上に盛り、トレン
ネル式に作つた門を埋門といひ

う。 室田の鷹留城は箕輪城と
あつた郭といふ。 その他の城は少數の城で別
用が鷹留城その他の城門は相互援助の城で別
県下にこれ一か所であるのは
埋門跡の残つてゐる。 あるのは

昭和五十七年一月
箕輪城跡保存会

これが虎口両側の石積み(石垣)の遺構



左手の石積み



下から見上げたところ



これは白川の対岸から箕輪城跡を見たところ



さて、これが「虎鞆門」の跡/標柱と説明坂が立っている



虎 韁門

虎韁とは、中國の昔の兵書「六韁三略」の虎韁へ虎の巻一である。この門をこう名づけたのは井伊直政であろう。ここは大堀切の西下を守る要点である。吉岡によれば、この南に馬出しがあつた。

昭和五十九年一月
箕郷町

こんな感じ



そこから城内方向を見たところで、ここは「大堀切口」/ここを上って行くと先に見た「郭馬出」に出る



「大堀切」を少し進んでみる/左手は「三の丸」



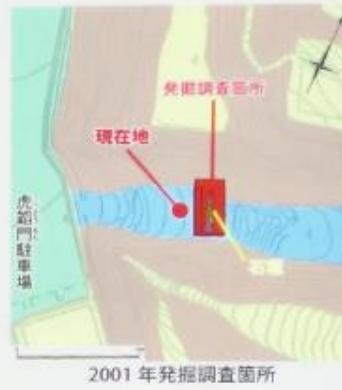
この「大堀切」の堀底には直交する石積み(石垣)があったという

おおほりきり 大堀切の石垣 The Stone Wall at the Ohorikiri

大堀切は城を南北に二分する役割があり、現在、幅30m、深さ9mの規模を誇っています。2001年の発掘調査では堀底付近で大堀切に直交する石垣が検出されました。石垣の規模は上幅3.9m、下幅2.9m程度、高さ2.5m以上で、現地表面から約5m下が石垣の上端になることから、本来の大堀切は現在よりも7.5m以上深かったことになります。

この石垣は敵の侵入に備える防御壁であり、併せて土砂の流出を押さえる砂防ダムの役割を果たしたとも考えられます。なお、電気探査の結果、この堀には他にも同様の石垣が数箇所に築かれていると推測されます。

The Ohorikiri is a large moat that separates the castle into two sections. It is presently 30 meters wide and 9 meters deep. The 2001 excavation revealed that the base of the moat was 7.5 meters deeper than its present depth, and near the bottom was a stone wall built at right angles to the moat.



2001年発掘調査箇所



堀底付近の石垣（北から）



調査区全景（北から）

さて、「大手虎韁門口」から「鍛冶曲輪」方向へと進んでみよう



説明坂が立っている



鎌冶曲輪の石垣

鎌冶場めあ、た所で
中世の大城にはよ
く見られ。ここで武具
などを作製、修理した。
このようす石垣は、
城内各所に見られる。

昭和五十九年一月
某 路

鍛治曲輪の石垣

鍛冶場のあつた所で
中世の大きな城にはよ
く見られ、ここで武具
などを作製、修理した。
このような石垣は、
城内各所に見られる。

昭和五十九年一月
箕郷町

こんな具合



前方に標柱が立っている





ここが「鍛冶曲輪」



反対側から見たところ



さて、ここから「三の丸」へと登って行こう



左右に折れながら登って行く



振り返って見たところ



登る切ると平場が見えてくる



正面に石積みが見える



右手を見ると説明坂が立っている



大堀切おほぼりきり

この大堀切は東西に走り城を北と南の二つに分けている。

こういう大規模な堀を鉤くわと呼んで築つきいれた人々の労苦がしのばれる。

昭和五十九年一月
箕郷町

「大堀切」を見下ろしたところ



さて、これが石積み(石垣)/説明坂がある



この石垣の先には既に見た「三の丸門跡」の石垣がある

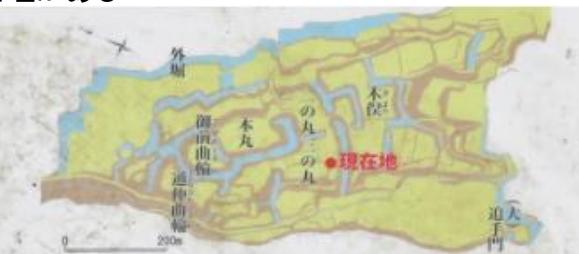
三の丸の石垣

THE STONE WALL OF THE Sanomaru

追手門から本丸へ至る大手ルートを固めている井伊時代に使われていた石垣です。1999年の発掘調査で基部が1m埋まっていることが確認され、当時の高さは4.1mにも及んだことが明らかになりました。城内では最も高く、関ヶ原の戦い(1600年)以前の関東地方の城郭でも有数の規模です。河原石を用いた野面積みで、一人では運べない大きめの石を用いています。

この石垣の背後(下層)では、最高1.3mほどの高さで、人頭大の河原石を階段状に積んだ古い石垣が見つかっています。同様の特徴を持つ石垣は、埼玉県寄居町の鉢形城跡でも確認されました。当時、鉢形の城主は北条氏邦で、箕輪の城主も兼任しており、技術が共有されたためと考えられます。

This stone wall is one of many walls which protected the main route leading from the front gate of the castle to the Honmaru. In the excavation of 1999, it was discovered that 1 meter of the base of the wall had been buried and that its original height had been 4.1 meters. It is the highest stone wall of the entire castle.



下層で確認された石垣

発掘調査時の三の丸の石垣

右手前は大きな石で、左前方は小さな石で積まれているようだ



反対側から見たところ



最後に「追手門」→「丸戸張」→「大手尾根口」→「観音様口」→「木俣」→「椿名口」へと
進んでみよう



ここが「追手門」/標柱と説明坂が立っている



大手門

太手口

この御城の最初の門は太
手の門なり。一ノ丸の北
側に立つて、二ノ丸の北
側に通じる。三ノ丸の北
側に通じる。四ノ丸の北
側に通じる。

人手の門也。五ノ丸の北
側に通じる。

トシロ城門也。六ノ丸

に移る。七ノ丸の北

側に通じる。八ノ丸正法門

も大手門也。九ノ丸正法門

も大手門也。十ノ丸正法門

も大手門也。十一ノ丸正法門

も大手門也。十二ノ丸正法門

も大手門也。十三ノ丸正法門

も大手門也。十四ノ丸正法門

も大手門也。十五ノ丸正法門

も大手門也。十六ノ丸正法門

も大手門也。十七ノ丸正法門

も大手門也。十八ノ丸正法門

も大手門也。十九ノ丸正法門

も大手門也。二十ノ丸正法門

も大手門也。二十一ノ丸正法門

も大手門也。二十二ノ丸正法門

も大手門也。二十三ノ丸正法門

も大手門也。二十四ノ丸正法門

も大手門也。二十五ノ丸正法門

も大手門也。二十六ノ丸正法門

も大手門也。二十七ノ丸正法門

も大手門也。二十八ノ丸正法門

も大手門也。二十九ノ丸正法門

も大手門也。三十ノ丸正法門

も大手門也。三十一ノ丸正法門

も大手門也。三十二ノ丸正法門

も大手門也。三十三ノ丸正法門

も大手門也。三十四ノ丸正法門

も大手門也。三十五ノ丸正法門

も大手門也。三十六ノ丸正法門

も大手門也。三十七ノ丸正法門

も大手門也。三十八ノ丸正法門

も大手門也。三十九ノ丸正法門

も大手門也。四十ノ丸正法門

も大手門也。四十一ノ丸正法門

も大手門也。四十二ノ丸正法門

も大手門也。四十三ノ丸正法門

も大手門也。四十四ノ丸正法門

も大手門也。四十五ノ丸正法門

も大手門也。四十六ノ丸正法門

も大手門也。四十七ノ丸正法門

も大手門也。四十八ノ丸正法門

も大手門也。四十九ノ丸正法門

も大手門也。五十ノ丸正法門

も大手門也。五十一ノ丸正法門

も大手門也。五十二ノ丸正法門

も大手門也。五十三ノ丸正法門

も大手門也。五十四ノ丸正法門

も大手門也。五十五ノ丸正法門



大手口

ここは井伊氏時代の大手口（追手口）である。門の前には、「丸戸張」といふ郭馬出しが構えられた。その外を広小路といつた。

大手口は間口約十一メートル、奥行四メートルの櫓門で、後に高崎柱に移されて櫻木門となしと刻んである。文禄四年は一五九五年である。

昭和五十七年一月

箕輪城跡保存会

これはその左手で、「丸戸張」を見上げたところ/正面の擁壁の上が「丸戸張」



これは「大手口」を少し進んだ所/ここを進むと「大手尾根口」方向へと至る



そこで左手を見ると、正面のエリアが「丸戸張」



ここが「丸戸張」/標柱が立っている



こんな感じ



さて、「大手尾根口」方向へ進もう



ここから入って行く



ここが「大手尾根口」



ここをまっすぐ進むと「郭馬出西虎口門」方面に至る/右手に行くと觀音様口方面に至る



まっすぐ進むと堀切のようなところを土橋で渡って行く



前方に説明坂が立っている



大手尾根筋

この道を大手尾根筋と呼んだのは故福島武雄氏である。

下に見えるのは腰曲輪で、南七十メートルに木戸跡があり、北二十九メートルにある堀は本丸辺の堀よりはるかに浅い。

昭和五十九年一月
箕郷町

そして右手に折れると左手が空堀となっており、この突き当たりを左手に行くと「郭馬出西虎口門」に至る



さて、ここは「観音様口」の手前にある法峯寺の参道



さまざまな石造物が並ぶ



説明坂が立っている



水の手曲輪

城で使う大切な水の湧き出し地点ところである。

周囲の地形が「箕」のようないわゆる地形をしている。箕輪の地名もここから起つたといふ。

昭和五十九年一月
箕郷町

この辺りは「水の手曲輪」と云つたようだ

法峯寺の山門/この背後が箕輪城跡



さて、左手から「観音様口」を進もう



「観音様口」に建つ観音堂



こちらから進む



少し進んだところで、まっすぐ行くと「郭馬出西虎口門」方面、右手に行くと「椿名口」に至る



まっすぐ進んだところで、左手は「大手尾根口」方面/更にまっすぐ進もう



途中から「郭馬出西虎口門」方面ではなく、右手に折れて進む



突き当たりで左手を見ると空堀があり、その左手は既に見た「木俣」/正面やや左前方に「郭馬出西虎口門」の屋根が見える



空堀の堀底に下りて北西方向を見たところ



さて、右手に折れて「椿名口」へと進もう



少し進んで振り返って北西方向を見たところ



少しづつ下って行く/左手サイドは平場となっている



その左手の平場を見たところ



平場に立って北西方向を見たところ



更に下って行く



その先の左手もこんな平場となっている/ここは空堀であったようだ



右下を見ると先程の法峯寺が見える



大分下って来た



説明坂が立っていた



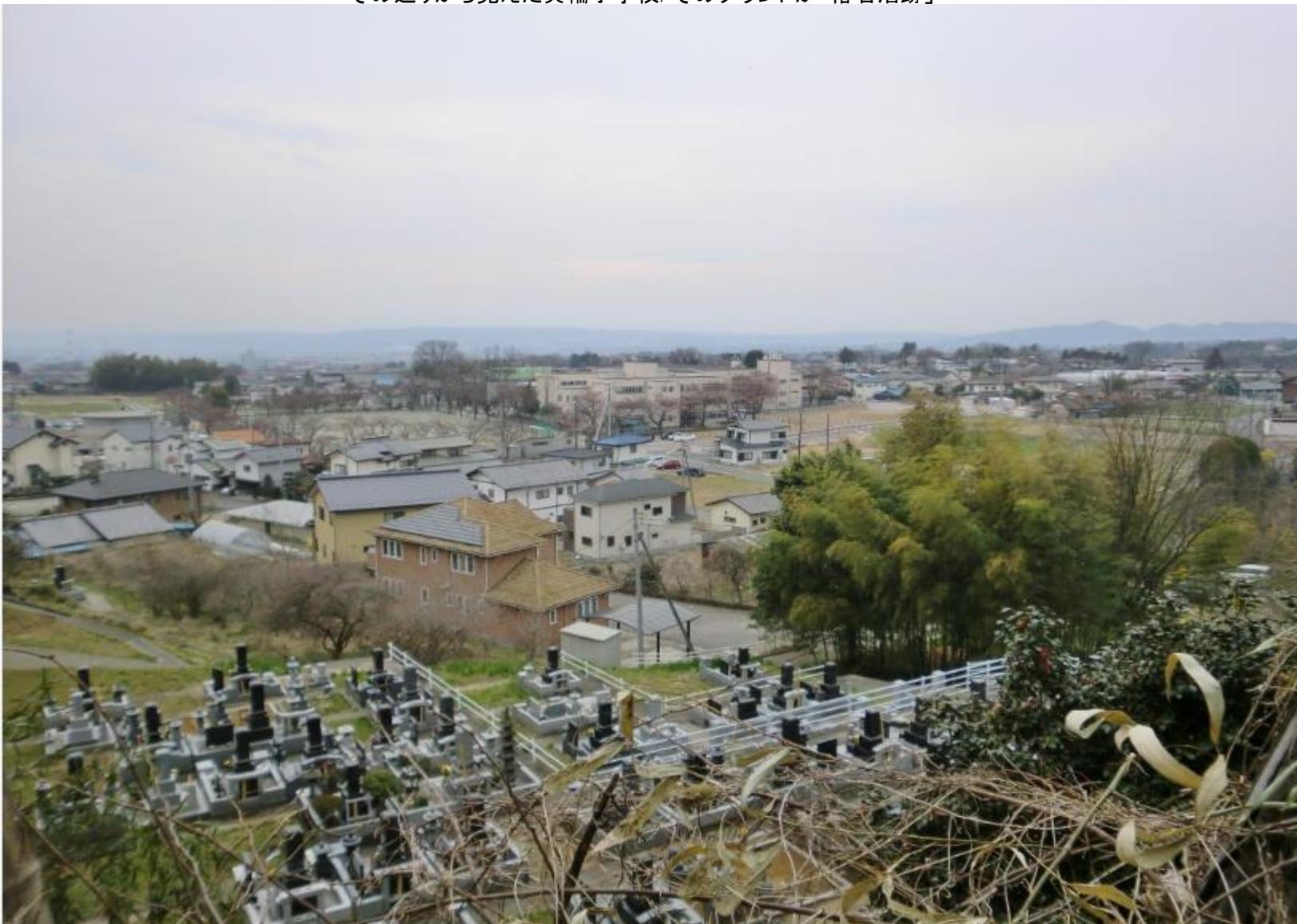
椿の歴

ここは椿名尾根に
くられた堀切である。

南に見える椿名沼跡
(今的小学校のグラント)
椿山の岩などは、
このあたりに茂る椿の
木による名であろうか。

昭和五十九年一月
箕郷町

その辺りから見えた箕輪小学校/そのグランドが「椿名沼跡」



前方に道路が見えてきた



その道路に出て振り返って見たところ/左手の道路を下って行くと「観音口」に至る



「椿名口」へは道路をこちらの方へ進む





を続しています。

が集中しているルートです。

いわれています

の桜が見事です。

椿があります。

が最も容易なルートです。

へのアクセスのよいルートです。

するとこんな所へ行き着く/前方が大きな道路のようだ



その道路に出て振り返って見たところ



標識に「椿名口入口」と記されている



さて、この道路を南東方向へ下って行く/巣子ぢ行くと道路左手の上が「椿山の砦」のエリア



もう少し進んで正面の坂を上って行く



上がり切ると一帯が墓地となっているが、この辺りが「椿山の砦」跡ということか



振り返って見たところ



これはそこから北西方向に箕輪城跡の「椿名口」方向を見たところ



これは左手の、「椿名沼跡」とされる箕輪小学校グランドを見たところ



これは「椿山の砦」を下って西方向に箕輪城跡を見たところ



これは「椿名沼跡」とされる箕輪小学校グランドから箕輪城跡を見たところ



箕輪小学校グランド脇のこの道が「椿名口」のある法峯寺の参道



各所に残る遺構

箕輪城は城主が代わるなどを契機にして、幾度も造り替えがなされています。そのため、現在の箕輪城は長野氏時代の城とはかなり異なつていて、最後の井伊直政在城当時の姿に最も近いと考えられます。



上がつて曲輪へいく
は石垣が残つて
西側の堀などに
ると、多くの場
城の主要部の
を考えられます。
加工をしない
ない怪一門は
では石が取れな
川から運び上
は、発掘調査な
りますが、一部



① 虎姫門の石垣



② 織治曲輪の石垣



③ 御前曲輪西堀の石垣

■見学コース案内

城跡には7か所の入り口があり、いずれも中央の見学コースに接続しています。

※各入口から中央コースまでの距離と所要時間、見所

大手虎姫門口 270m 10分 三の丸など城内で最も石垣が集中しているルートです。

大手鬼根口 470m 15分 長野氏時代の大手ルートといわれています。

觀音櫓口 400m 13分 觀音櫓の石段を登ります。春の桜が見事です。

椿名口 620m 17分 なだらかな延根道で、一苦心あります。

椿手口 260m 5分 城の主要部へのアプローチが最も容易なルートです。

露雲山口 200m 4分 椿手口と同様に城の主要部へのアクセスのよいルートです。

大審切口 220m 7分 虎姫門駐車場から露雲山口へ一気に向かえます。

※中央コースの距離と所要時間、見所

中央コース 800m 20分 四曲曲輪・本丸・二の丸と、これらの曲輪環の巨大な輪が見られます。



箕輪城の発掘調査

平成二〇年度から史跡整備に向けた発掘調査を進めた結果について主なものを次に記します。

① 二の丸の石垣

城内では最も高い四・一mの石垣を確認しました。関東地方の城郭は江戸時代に入ると、江戸城など一部の城郭では四町を超えるような高石垣が用いられていますが、それ以前では豊臣秀吉が築いた石垣山城（神奈川県小田原市）など限られた城でしか確認されていません。箕輪城が北関東の要の城にふさわしい形で改修されたことがこの石垣からうかがえます。



② 三の丸の下層の石垣

①の下層で確認された古い時期の石平行して積まれた石垣です。最高一、一人で運べるくらいの石を用いる期の石垣と比較すると大きな相違があります。特徴を持つ石垣が北条氏邦が城主を兼城跡（埼玉県寄居町）でも見つかっています。



年代	箕輪城 城主	主な出来事	箕輪城の歴史
1454年 (享徳3) ～ 1482年 (文明14)		享徳の乱で関東地方が織田時代へ。	南朝・五〇〇年後後に長野氏が築城されました。後の系団によると、柴崎、源兼、景政、繁盛の四代が箕輪城を本拠にしていたと伝えられています。ただし、近年の研究では、方舟・若狭・幸政・土氏家（足利）と変遷したことことが指摘されています。また、景政や源兼は應永城（高崎市下三田町）を築城した長野氏の一族ではないかという指摘もなされています。
1500年頃		この頃、箕輪城築城。	長野氏は武田氏の西上野侵攻に際して、この箕輪城
1524年 (大永4)	（長野・業政など） 長野	箕輪の長野方業が總社城主長尾顕定を攻める。この年までに箕輪城は築城されている。	開東管領上杉憲政、北条氏に攻められ、平井城（藤岡市）を追われる。 桶狭間の戦い（織田信長、今川義元を破る。）
1552年 (天文21)			この頃から、武田信玄が西上野に出兵する。
1560年 (永禄3)			武田信玄、箕輪城を落とす。
1561年 (永禄4)			室町幕府滅亡 (信長・足利義昭を追放する。)
1566年 (永禄9)			長篠の戦い(信長・徳川家康が、武田勝頼を破る。)
1573年 (天正元)	（内藤・昌幸など） 武田		信長重臣の鷹川一益が箕輪に入城するが、間もなく北条氏邦が城主に。
1575年 (天正3)			信長・武田氏を滅ぼす、本能寺の変(信長死す。)
1582年 (天正10)	（高川） 織田		豊臣秀吉、四国平定。秀吉、関白に。
1585年 (天正13)	（北条・氏昌など） 北条		家康家臣中最高石高の12万石で、

1590年 (天正18)	井伊直政	井伊直政が貢輪城主に。 秀吉、北条氏を滅ぼし、天下統一。
1598年 (慶長3)	井伊徳 直政	直政、城を高崎に移し、貢輪城は廢城に。秀吉死去。



水縫九年(二五)
に武田信玄に落

5 西虎口曲柄脚踏

通村曲輪の御番曲輪へ渡った場所の處に誰かで跡を確認しました。礎石は全部で六石あり、その配陣から主柱二本を前後四本の檼柱で支える四脚門と推測されます。幅三・一m、奥行三・一mの規模になります。門の屋根から落ちる雨水を受けるための溝には二五六個の石塔の部材が用いられています。



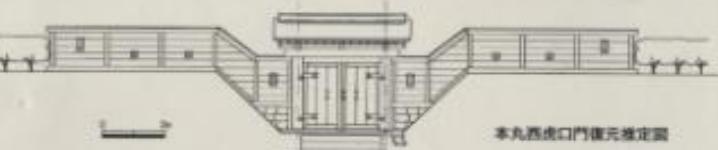
頃で、大廻切に
三田ほどのかさ
など、城最終時
ります。同様な
任して、いた鉢形
ます。

③ 本丸西虎口

蔵屋敷から本丸に架がっていた橋と推測される木橋を渡った所で、幅二・九四m、奥行一・五五四mの門跡を確認しました。
礎石は全部で四石あり、その配置から一階建ての高闕門と推測されますが、本丸に入る三か所の虎口のうち、唯一木橋を渡つてはいる虎口で、間口(扉部分の幅)については、本丸の中で最大です。全国に現存する城門や城塁などを分析し、下図のように再建されました。今後、この門を復元していく計画になっています。



蔵屋敷から本丸に架がっていた橋と推測される木橋を渡った所で、幅二・九四m、奥行一・五五四mの門跡を確認しました。
礎石は全部で四石あり、その配置から一階建ての高闕門と推測されますが、本丸に入る三か所の虎口のうち、唯一木橋を渡つてはいる虎口(扉部分の幅)については、開口(扉部分の幅)を分析し、下団のようになります。今後、この門を復元していく計画になっています。



卷之三



⑦ 大堀切西端付近の石垣

場に直交し砂防ダムのような段階などがある石垣が
雁浜付近で確認されました。この調査部分では七・五田
以上堤が埋まっているのがわかつています。



⑥ 大塀切土橋付近の石垣

⑥ 大堀切口橋付近の石垣
箕輪城を南北に分断する堀で、堀の南側が落とされても城の主要部の北側を守ることができる役割を果たしていました。この堀を唯一譲ることができる十橋の基底部では土留めの役割を果たす石垣を確認しました。



郭馬出西虎口

大堀切に唯一ある土橋を、二の丸から南に渡る
五二町二七町の曲輪があります。南側に出撃する拠点
の役割があり、郭馬出と呼ばれています。平成二四年度に
発掘調査し、西側の虎口で幅五・七三m、奥行三・四八m
の門跡を確認しました。礎石の配置から二階建ての櫓門
と推測され、関ヶ原の戦（一六〇〇年）以前では、
確認されている中で関東地方最大規模の門跡になります。
門の柱を据える礎石は全部で八石あり、屋根から落
ちる雨水を受けるための排水用の溝もあり、極めて
良好に残っていました。本丸西虎口と同様に考证され、
平成二八年一月には復元工事が完成しました。

参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/004gunma/098minowa/minowa.html>

<http://yogoazusa.my.coocan.jp/minowams.htm>

<http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Gunma/Minowa/>

<http://www9.wind.ne.jp/fujin/gunma/kokudo/minowa/minowa.htm>

<http://www.uraken.net/museum/castle/shiro122.html>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/kouzuke/minowa-jyo/>

http://castle.slowstandard.com/08kanto/15gunma/post_38.html

<http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-357.html>

https://jyo-sai.com/castle-report/hirajiro-hirayamajiro-cat/minowa_castle/

<http://www.geocities.jp/qbpbd900/minowa.html>

